

## 「西脇選書 選定にあたって」

西脇市に若いデザイナーたちが集まってきており、彼／彼女らのためのコワーキングスペースを作るという話を聞いたとき、かねてからファッションの東京一極集中をどうにかできないかと考えていた私はとても嬉しく、かつ頼もしく思いました。地方でデザインを仕事にすることが当たり前になれば、日本のファッションはもっと豊かになるだろうと思われるからです。とはいえ、西脇市の試みが他の産地のモデルケースとなるためには、このコワーキングスペースの利用者たちが良いデザインを生み出し続けなければなりません。そのために、若きデザイナーたちが「デザイン」という概念をきちんと理解し、実践できるようになるきっかけを提供したい。その思いがこの選書の出発点です。

デザインとは何か。それは、ブルーノ・ムナériが指摘するように、一言で言えば問題解決です。では、その問題解決をどのように行えばよいのか。それは、これまたムナériが教えてくれるように、作るモノやサービスの目的とターゲット、もっと言えば 5W1H をあらかじめ想定した上でリサーチを行い、アイデアを出し、実験と検証を繰り返すことです。日本のファッションデザイン教育、テキスタイルデザイン教育では、そうした基本が教えられることがあまりないようなので、デザインの基本を学べることを第一の目的にしました。

実際に問題解決を行うためには、まずもって物事を見る（＝分析する）能力がなければなりません。世の中に問題があったとしても、それを見出せなければ解決することはできませんし、参考になるモノやサービスがあってもその本質を見極められなければ、本当の意味で理解することはできません。そのための分析力、そして物事を筋道立てて考えられる論理的思考力を養えることが第二の目的です。

その次に目指すべきは知識の獲得です。良いデザインを行うためには、想像力が必要です。たとえば、見たことも聞いたこともない国の人のための服をデザインすることは、どんな優秀なデザイナーでもできません。何も知らなければ想像力を働かせることは不可能だからです。逆に言えば、想像力を働かせるためには知識（あるいは経験）が必要なのです。もちろん、数十冊の本であらゆる分野の知識を網羅することはできませんが、まだ知らない世界へのドアを開ける端緒にはなるかと思えます。

選んだ書籍は、どのような意図で選ばれたのかわかるように九つのキーワードに分類していますが、これはあくまで最初のガイドとして捉えてください。二つ以上のキーワードにまたがるものもありますし、与えられたガイドから外れた読み方をすることも可能なはずです。あるいはまた、自分たちで書籍を追加していくのも良いでしょう。この選書を静的なりソースとして固まらせるのではなく、皆さんが主体的にカスタマイズしていくことで動的なりソースへと変換させてもらえれば、それは選者として望外の喜びです。

この選書が皆さんの仕事と人生をより豊かにしてくれることを願っています。

蘆田裕史

京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部ファッションコース講師